

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 熊澤 真理子 先生		
授業科目名 生理学Ⅱ	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>歯科医師、医療の基礎となる生理学のうち、内分泌系・生殖系・感覚系・生体防御機構の機能を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。</p>					
<p>〔到達目標〕</p> <p>医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。</p>					
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>生理学[医歯薬出版]</p>			<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)		
1	第8章 内分泌 A、ホルモンの特徴～B、ホルモンの種類とその働き(視床下部と下垂体)		内分泌腺を理解できる。 ホルモンの性質、作用機序、分泌調節を理解できる。		
2	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(視床下部・下垂体ホルモン)		視床下部・下垂体から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。		
3	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(甲状腺・副甲状腺・膵臓ホルモン)		甲状腺～膵臓から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。		
4	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(副腎・精巣・卵巣のホルモン)		副腎～性腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。		
5	第9章 生殖・成長と老化 A、生殖～b.女性生殖器 (2)性周期		生殖器の構造と働きを理解できる。 女性性周期を理解できる。		
6	第9章 B、妊娠と出産～D、老化		妊娠～出産までの流れを理解できる。 老化について理解できる。		
7	確認テスト 解答・解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
8	第13章 感覚 A、感覚一般～B、体性感覚		感覚を分類することができる。 各種感覚に共通する一般的特徴を理解できる。		
9	第13章 B、体性感覚～D、痛覚		体性感覚、内臓感覚、痛覚について理解できる。		
10	第13章 特殊感覚①		特殊感覚である味覚・嗅覚・聴覚を理解できる。		
11	第13章 特殊感覚②		特殊感覚である平衡感覚・視覚を理解できる。		
12	第14章 生体の防御機構 生体の防御機構 a.非特異的防御機構～ c.白血球の働き		非特異的防御機構・特異的防御機構の特徴を理解できる。		
13	第14章 免疫に働く液性因子～B、免疫反応		免疫系で働く白血球や液性因子の働きを理解できる。		
14	第15章 身体活動の協調 総復習		生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス機構について理解できる。		
15	期末テスト 解答・解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>			<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。</p>		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 柏崎 雅大 先生		
授業科目名 解剖生理学	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>教員資格を持つ鍼灸師が、基礎医学である解剖学、及び生理学を習得する授業を行う。解剖学では生殖器系、感覚器系について、生理学では筋、運動についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>					
<p>〔到達目標〕</p> <p>解剖学:生殖器の構造、特殊感覚の構造と伝導路について理解し、自ら要点を整理することができる。生理学:筋の機能、運動の仕組みについての知識を習得し、自ら要点を整理することができる。</p>					
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>解剖学(医歯薬出版) 生理学(医歯薬出版) 解剖学トレーニングノート(医学教育出版社)</p>			<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。</p>		
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)			
1	解剖学 第6章 生殖器系;男性生殖器	精巣の構造、精子の発生と精路の構造を理解する。			
2	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器	卵巣の構造、卵子の発生を理解する。			
3	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器、発生	子宮、膣の構造を理解する。発生の諸段階を理解する。			
4	解剖学 第9章 感覚器;視覚器	眼球の構造、視覚の伝導路を理解する。			
5	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器	聴覚器の構造、聴覚の伝導路を理解する。平衡覚の構造を理解する。			
6	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	平衡覚の構造、平衡覚の伝導路を理解する。味覚器と嗅覚器の伝導路を理解する。			
7	解剖学 復習 確認テスト	生殖器および感覚器の構造を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。			
8	生理学 第11章 筋 A骨格筋の構造と働き~B筋の収縮の仕組み	骨格筋の微細構造と、興奮収縮連関を理解できる。			
9	生理学 第11章 筋 Cエネルギー供給の仕組み	筋収縮のエネルギー代謝と熱産生を理解できる。			
10	生理学 第11章 心筋と平滑筋	心筋と平滑筋の構造を理解できる。心筋、平滑筋、骨格筋の特徴と相違を理解できる。			
11	生理学 第12章 運動 A骨格筋の支配神経~e骨格筋の緊張	骨格筋の支配神経を理解できる。			
12	生理学 第12章 運動 B運動の調節	中枢神経の各レベルの運動調節機構を理解できる。			
13	生理学 第12章 C錐体路系と錐体外路系~D発生と言語	運動の伝導路を理解できる。			
14	生理学 復習 確認テスト	筋および運動の機能を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。			
15	期末テスト 解答・解説	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。			
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>			<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 東野 友寛先生		
授業科目名 運動学	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>患者に対しての運動指導を経験し、姿勢や歩行について知見を有する教員が、運動学を習得する授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>					
<p>〔到達目標〕</p> <p>身体運動を分析する基本的観点と専門用語を理解することを目的とし、身体各部の詳細と運動を知る。さらに姿勢や歩行について知識を身につけ、理解、説明できるようにする。</p>					
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>リハビリテーション概論(医歯薬出版)</p>			<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体各部の構造や機能を理解することが望ましい。</p>		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)		
1	オリエンテーション A. 運動学の基礎 1. 関節と運動の力学		運動学の定義を理解できる。		
2	A.運動学の基礎 2. 姿勢とその異常		正常立位と異常立位の違いを理解できる。		
3	A.運動学の基礎 3. 運動路と感覚路		錐体路と錐体外路の違いを理解できる。		
4	A.運動学の基礎 4. 反射と随意運動		姿勢反射と立ち直り反射を理解できる。		
5	B.身体各部の機能 1. 脊柱・体幹の機能/確認テスト①		脊柱の動きと胸郭の動きを理解できる。		
6	B.身体各部の機能 2. 肩甲帯・肩の機能		肩甲上腕リズム・肩の動きを理解できる。		
7	B.身体各部の機能 3. 肘と前腕の機能		肘と前腕の動きと、作用する筋を理解できる。		
8	B.身体各部の機能 4. 手と手の機能		手のアーチと手に起こりやすい変形を理解できる。		
9	B.身体各部の機能 5. 骨盤と股関節の機能/確認テスト②		骨盤と股関節の動きを理解できる。		
10	B.身体各部の機能 6. 膝関節の機能		膝関節のメカニクスについて理解できる。		
11	B. 身体各部の機能 7. 足の機能		足関節の動きと、起こりやすい変形を理解できる。		
12	B.身体各部の機能 8. 正常歩行と異常歩行		歩行サイクルについて理解できる。		
13	B.身体各部の機能 9. 顔面および頭部の筋		頭顔面部の筋と動きを理解できる。		
14	総復習		運動学全般を復習し、習熟度を高めることができる。		
15	期末テスト 解答・解説		テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。		
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト①と確認テスト②と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>			<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース 授業科目名 <p style="text-align: center;">病理学概論</p>	学年	2	開講 区分	前期	担当教員 櫻井 恵司 先生			
	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 教員資格を持つ鍼灸師、または病理学について知見を有する教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。								
〔到達目標〕 病因、循環障害、退行性病変、進行性病変の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。								
〔使用教材、参考文献等〕 病理学概論(医歯薬出版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的な考え方			病理学とは何か、疾病の分類について理解できる。				
2	第3章 病因・内因;素因、遺伝、内分泌			年齢、性により罹患しやすい疾患を理解できる。染色体異常により生じる疾患を理解できる。内分泌疾患を理解できる。				
3	第3章 病因・内因;免疫、外因;供給障害			免疫応答の概要を理解できる。				
4	第3章 病因・外因;供給障害 内因確認テスト			ビタミンや無機塩類の過不足により生じる疾患や症状を理解できる。				
5	第3章 外因;物理的病因、化学的病因			放射線の感受性の高い器官を理解できる。化学物質により生じる疾患を理解できる。				
6	第3章 外因;医原病、環境汚染、生物的病因			医療行為により発症する疾患を理解できる。日和見感染や菌交代現象について理解できる。				
7	第3章 外因;生物的病因 第4章 循環障害;ヒトの循環系			病原微生物と病原微生物により生じる感染症を理解できる。ヒトの血液循環を復習し、理解できる。				
8	第4章 循環障害;充血・うっ血、貧血・虚血、出血 外因確認テスト			重要なうっ血と発生機序を理解できる。貧血の種類と疾患を理解できる。出血の種類と分類を理解できる。				
9	第4章 循環障害;血栓症、塞栓症、梗塞			血栓形成の誘因を理解できる。塞栓症や塞栓の種類を理解できる。貧血性梗塞と出血性梗塞を起こしやすい器官を理解する。				
10	第4章 循環障害;水腫・浮腫・脱水症			浮腫の病態生理を理解できる。一次性脱水症と二次性脱水症の病態生理を理解できる。				
11	第4章 循環障害;ショック 第5章 退行性病変;萎縮、変性			一次性ショックと二次性ショックの相違、およびショックの原因とその病態を理解できる。変性の分類と疾患を理解できる。				
12	第5章 退行性病変;加齢と老化、生活習慣病、壊死と死 循環障害確認テスト			加齢が影響する疾患を理解できる。主な生活習慣病の病態を理解できる。壊死の分類、病態生理を理解できる。				
13	第5章 退行性病変;壊死と死、アポトーシス 第6章 進行性病変;肥大と増殖			脳死の判定基準について理解できる。脳死と植物状態の相違を理解できる。肥大の分類と病態を理解できる。				
14	第6章 進行性病変;再生、化生、移植			再生の分類について理解できる。化生と腫瘍の関係を理解できる。移植の分類と拒絶反応を理解できる。				
15	期末テスト 解答・解説			テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	開講区分	前期	担当教員			
鍼灸師科午後コース		2			山田 英史 先生			
授業科目名		必修/選択	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
臨床医学総論		必修						
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。</p> <p>座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <p>医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学総論(医歯薬出版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	・第1章;診察の概要 ・第2章;診察の方法 医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法			医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法について理解できる。				
2	・第2章;診察の方法 視診、触診、打診			視診、触診、打診の意義と方法について理解できる。				
3	・第2章;診察の方法 聴診、測定法、神経系の診察			聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法について理解できる。				
4	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 体温、脈拍			体温、脈拍の診察の意義と診察方法について理解できる。				
5	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 血圧、呼吸			血圧、呼吸の診察の意義と診察方法について理解できる。				
6	・第4章;全身の診察 顔貌、精神状態、言語			顔貌、精神状態、言語の診察の意義と診察方法について理解できる。				
7	・第4章;全身の診察 身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位			身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位の診察の意義と診察方法について理解できる。				
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	・第4章;全身の診察 歩行			歩行の診察の意義と診察方法について理解できる。				
10	・第4章;全身の診察 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態			皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態の診察の意義と診察方法について理解できる。				
11	・第4章;全身の診察 リンパ節、その他の一般的状態			リンパ節、その他の一般的状態の診察の意義と診察方法について理解できる。				
12	・第5章;局所の診察 頭部・顔面			頭部・顔面の診察の意義と診察方法について理解できる。				
13	・第5章;局所の診察 眼、鼻			眼、鼻の診察の意義と診察方法について理解できる。				
14	・第5章;局所の診察 耳、口腔			耳、口腔の診察の意義と診察方法について理解できる。				
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 佐々木 史子 先生	
授業科目名 臨床医学各論 I	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30 (1)	授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の鑑別に従事している教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>				
<p>〔到達目標〕</p> <p>感染症、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患の知識を習得することを目標とする。 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。</p>				
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)		〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。		
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)		
1	第1章;感染症 総論、細菌感染症	感染症総論、細菌感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
2	第1章;感染症 細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症	細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
3	第1章;感染症 ウイルス感染症、性感染症 確認テスト	ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
4	第2章;消化管疾患 口腔疾患、食道疾患	口腔疾患、食道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
5	第2章;消化管疾患 胃・十二指腸疾患	胃・十二指腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
6	第2章;消化管疾患 腸疾患	腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
7	第2章;消化管疾患 腸疾患、腹膜疾患	腸疾患、腹膜疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
9	第3章;肝・胆・膵疾患 肝臓疾患	肝臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
10	第3章;肝・胆・膵疾患 肝臓疾患、胆道疾患	肝臓疾患、胆道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
11	第3章;肝・胆・膵疾患 胆道疾患、膵臓疾患 確認テスト	胆道疾患、膵臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
12	第4章;呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
13	第4章;呼吸器疾患 閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
14	第4章;呼吸器疾患 その他の呼吸器疾患	その他の呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。		
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 笠井 友和先生
授業科目名 経絡経穴概論Ⅱ	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1) 授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、東洋医学として必須知識、経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。</p>			
<p>〔到達目標〕</p> <p>各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。また経絡経穴の特性を理解し説明できる。解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。</p>			
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>新版 経絡経穴概論 医道の日本社</p>		<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>	
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)	
1	経脈・経穴:手の厥陰心包経	手の厥陰心包経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。	
2	経脈・経穴:手の少陽三焦経①	手の少陽三焦経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。	
3	経脈・経穴:手の少陽三焦経②	経穴の取穴場所を理解できる。	
4	腹部の奇穴/胸腹部の横並び経穴	経穴の取穴場所を理解できる。	
5	胸腹部の横並び経穴	経穴の取穴場所を理解できる。	
6	経脈・経穴:足の少陽胆経①	足の少陽胆経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。	
7	顔・喉の経穴 復習	経穴の取穴場所を理解できる。	
8	確認テスト 前半の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める	
9	経脈・経穴:足の少陽胆経② 骨度法復習	経穴の取穴場所を理解できる。	
10	経脈・経穴:足の少陽胆経③	経穴の取穴場所を理解できる。	
11	足の厥陰肝経 組合せ奇穴	足の厥陰肝経の流注について理解することができる。	
12	奇経八脈	経穴の取穴場所を理解できる。	
13	奇穴・経絡論・経穴の英語表記 取穴確認	経穴の取穴場所を理解できる。	
14	要穴	要穴を理解することができる。	
15	期末テスト 前期全体の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める	
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>		<p>〔特記事項〕</p>	

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			高濱 晴美 先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
東洋医学を通じて地域の健康増進に努めた教員が、鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や体・病の捉え方など基本から習得できる授業を行なう。初めて聞くような言葉や漢字がたくさん出てくるので、意味などを覚えながら受講できるよう、復習も欠かさず授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
鍼灸の基本となる東洋医学の知識を復習しながら、応用できるようになる。また、東洋医学的な人体の考え方や病気の考え方を修得し実技にも結びつけることが出来るようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 新版 東洋医学概論(医道の日本社)					〔準備学習・時間外学習〕 前回の授業の復習をしっかりと行い、わからないところなどは早めに解決させていきましょう。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	四診について(望診)①			人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。					
2	四診について(望診)②			人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。					
3	四診について(聞診)①			声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。					
4	四診について(聞診)②			声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。					
5	四診について(問診)①			患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうのかを理解し実践できるようになる。					
6	四診について(問診)②			患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうのかを理解し実践できるようになる。					
7	四診について(切診)①			直接触れて身体の悪いところなどが分かるようになる。					
8	確認テスト			確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	振り返りと四診の続き			テストの振り返りを行い、習得できていないところを再確認する。四診の切診について理解を深める。					
10	四診合参について			四診を総合的に判断し、病状を明らかにすることで正確な弁証を行なって治療へと結びつけることが出来る。					
11	弁証について(八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証)			それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。					
12	弁証について(経絡弁証、六経弁証、衛気営血弁証など)			それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。					
13	論治について(治則、治法、治療法の概要)			具体的な治療方針について学び理解することが出来る。					
14	弁証論治の進め方と証の決定について			弁証の手順の確認をして、臨床に活かせるようになる。					
15	期末テスト 解答・解説			期末テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。 筆記試験は合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	開講区分	前期	担当教員			
鍼灸師科午後コース		2			東 路子			
授業科目名		必修/選択	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はり実技		必修						
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の施術を経験している教員が、経絡の流注や経穴に対する刺鍼の深さ・方向、また筋と経穴の関係性を学ぶ授業を行う。 実技の授業となるため遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刺鍼手技を実際に行い、直刺・斜刺・横刺、刺入の深さなど、経穴・経絡の走行に応じて適切な刺鍼ができる。 ・筋の起始停止が理解でき筋上にある経穴に正確に刺鍼できる。 								
〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう実技基礎編(医道の日本)				〔準備学習・時間外学習〕 解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また刺鍼に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	上肢の筋と経穴			上肢の筋の起始停止を理解し筋上にある経穴に正確に刺鍼ができる。				
2	経絡の流注に合わせた刺鍼と刺鍼手技 上肢の陰経の並びの確認と経絡に対する刺鍼			上肢の経絡(陰経)の流注を理解し刺鍼手技が正確に行なえる。				
3	経絡の流注に合わせた刺鍼と刺鍼手技 上肢の陽経の並びの確認と経絡に対する刺鍼			上肢の経絡(陽経)の流注を理解し刺鍼手技が正確に行なえる。				
4	下腿部と大腿部の筋と経穴			下肢部の筋の起始停止を理解し筋上にある経穴に正確に刺鍼ができる。				
5	経絡の流注に合わせた刺鍼と刺鍼手技 下肢の陰経の並びの確認と経絡に対する刺鍼			下肢の経絡(陰経)の流注を理解し刺鍼手技が正確に行なえる。				
6	経絡の流注に合わせた刺鍼と刺鍼手技 下肢の陽経の並びの確認と経絡に対する刺鍼			下肢の経絡(陽経)の流注を理解し刺鍼手技が正確に行なえる。				
7	実技練習と確認テスト(筆記15点)			筆記試験により知識習得の効果測定を行う。 また実技練習をし技術の向上に努める。				
8	頭頸部の筋と経穴			頭頸部の筋の起始停止を理解し筋上にある経穴に正確に刺鍼ができる。				
9	肩周囲の筋と経穴			肩周囲の筋の起始停止を理解し筋上にある経穴に正確に刺鍼ができる。				
10	経絡の流注に合わせた刺鍼と刺鍼手技 頸部・肩上部への刺鍼(横刺の練習含む)			頸部・肩上部の経絡の流注を理解し刺鍼手技・横刺が正確に行なえる。				
11	経絡の流注に合わせた刺鍼(鍼尖転位) 背部への刺鍼			腹部の経絡の流注を理解し安全な刺鍼、鍼尖転位が行なえる。				
12	経絡の流注に合わせた刺鍼 胸部の経穴の並びの確認と経絡に対する刺鍼			胸部の経絡の流注を理解し安全な刺鍼が行なえる。				
13	経絡の流注に合わせた刺鍼と刺鍼手技 腹部への刺鍼			腹部の経絡の流注を理解し刺鍼手技が正確に行なえる。				
14	実技練習と確認テスト(筆記15点)			筆記試験により知識習得の効果測定を行う。 また実技練習をし技術の向上に努める。				
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。				
〔評価について〕 評価は実技試験と筆記試験で行う。 実技試験は筆記の確認テストと実技の期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 触診や取穴が難しいときは授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			柏崎 雅大 先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸師として臨床の現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、多種の鍼灸施術の方法を指導し、適切な鍼灸・灸技術習得するための授業を行なう。応用技術習得と並行し、現場で通用するような基礎技術の向上が目的にある為、現場で必要とされる技術を身に付けられるよう授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 身体各部位に安全に灸行為を行うことができる。 透熱灸、隔物灸、灸頭鍼、糸状灸、吸角療法の技術を対人で行うことができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう実技基礎編(医道の日本社)				〔準備学習・時間外学習〕 解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また灸灸に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。					
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	隔物灸の種類と注意点 しょうが灸	安全に配慮し、しょうが灸による対人灸灸ができる。							
2	隔物灸の種類と注意点 塩灸・みそ灸	安全に配慮し、塩灸・みそ灸による対人灸灸ができる。							
3	隔物灸の種類と注意点 綿花灸	安全に配慮し、綿花灸による対人灸灸ができる。							
4	灸頭鍼の基礎と注意点 枕を用いた訓練	適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。灸頭鍼の留意点を把握し、適切な除灰ができる。							
5	灸頭鍼の基礎と注意点 下肢経穴への人体灸灸	適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。灸頭鍼の留意点を考慮して対人灸灸ができる。							
6	灸頭鍼の基礎と注意点 腰背部への人体灸灸	適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。灸頭鍼の留意点を考慮して対人灸灸ができる。							
7	確認テスト	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。							
8	灸頭鍼の応用	八膠穴への刺灸技術を習得し、仙骨部への灸頭鍼が安全に行える。							
9	糸状灸の基礎	適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。糸状灸の留意点を把握し、基本的な灸灸動作を身に付けられる。							
10	糸状灸の応用	糸状灸の技術を用いた、治療法を模倣できる。							
11	吸角療法の基礎	吸角療法の留意点を把握し、吸角療法の基本的な灸灸動作を習得できる。							
12	灸点紙を用いた連続灸灸	灸点紙を用いて訓練し、透熱灸の基礎技術を向上させることができる。							
13	二点交互灸灸	二点交互灸灸で、透熱灸の基礎技術を向上させることができる。							
14	総復習 二点交互灸灸	二点交互灸灸の技術を確認し、試験における自らの課題発見ができる。							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。							
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 学生は、リスク管理、環境管理の視点を疎かにしてはならない。危険なく施術できるようになる為、何が危険因子となるのかを考え、自ら教員にアドバイスを求めること。適宜紙上の灸灸を実施し、技術確認を行う。					

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 櫻井 恵司 先生	
授業科目名 病理学概論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (1)
					授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>教員資格を持つ鍼灸師、または病理学について知見を有する教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>						
<p>〔到達目標〕</p> <p>炎症、腫瘍、免疫・アレルギー、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。</p>						
〔使用教材、参考文献等〕 病理学概論(医歯薬出版)			〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。			
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)			
1	第6章 進行性病変;創傷治癒・組織内異物の処理 第7章 炎症;炎症の一般		創傷治癒の過程を理解できる。異物の処理の種類を理解できる。炎症の機序を理解できる。			
2	第7章 炎症;炎症の一般、炎症の分類		炎症の機序を理解できる。炎症の分類と疾患を理解できる。			
3	第7章 炎症;炎症の分類 第8章 腫瘍		主な特異性炎の病態を理解できる。			
4	第8章 腫瘍;腫瘍の一般		細胞異型について理解できる。腫瘍組織について理解できる。			
5	第8章 腫瘍;腫瘍の一般		腫瘍の分類について理解できる。			
6	確認テスト 解答・解説		テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。			
7	第8章 腫瘍;腫瘍の一般		前癌病変を理解できる。転移しやすい器官、転移方式について理解できる。			
8	第8章 腫瘍;腫瘍の一般、良性腫瘍、悪性腫瘍		腫瘍の発生原因(外因)について理解できる。			
9	第9章 免疫異常・アレルギー:液性免疫と細胞性免疫		免疫の概要を理解する。抗体の種類と特徴を理解できる。			
10	第9章 免疫異常・アレルギー:アレルギー		アレルギーの分類とその病態、具体的な疾患を理解できる。			
11	第9章 免疫異常・アレルギー;免疫不全、自己免疫異常		免疫不全について理解できる。非特異的臓器自己免疫疾患について理解できる。主な自己免疫疾患について理解できる。			
12	第10章 先天性異常;先天性異常総論		先天性代謝異常について理解できる。染色体異常に基づく奇形を理解できる。			
13	第10章 先天性異常;先天性異常総論		催奇性因子について理解できる。奇形の分類を理解できる。			
14	第10章 先天性異常;遺伝性疾患、染色体異常		単純遺伝性の異常を理解できる。			
15	期末テスト 解答・解説		テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。			
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員 山田 英史 先生			
授業科目名 臨床医学総論		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要とされる適切な診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。</p> <p>座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>局所の診察、神経系の診察、運動機能検査、その他の診察、臨床検査法、おもな症状の診察法、治療学、臨床心理の知識を習得することを目標とする。</p> <p>各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。</p>									
[使用教材、参考文献等] 臨床医学総論(医歯薬出版)					[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	・第5章;局所の診察 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜				頸部、胸部、乳房、肺・胸膜の診察の意義と診察方法について理解できる。				
2	・第5章;局所の診察 腹部・背部				腹部・背部の診察の意義と診察方法について理解できる。				
3	・第5章;局所の診察 四肢				四肢の診察の意義と診察方法について理解できる。				
4	・第6章;神経系の診察 感覚検査法、反射検査				感覚検査法、反射検査の診察の意義と診察方法について理解できる。				
5	・第6章;神経系の診察 脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査				脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の診察の意義と診察方法について理解できる。				
6	・第6章;神経系の診察 運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動				運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動の診察の意義と診察方法について理解できる。				
7	中間テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	・第6章;神経系の診察 協調運動～徒手による整形外科的検査法				協調運動～徒手による整形外科的検査法の診察の意義と診察方法について理解できる。				
9	・第8章;その他の診察 救急時の診察～高齢者の診察 ・第9章;臨床検査法 一般検査				救急時の診察～高齢者の診察、一般検査の診察の意義と診察方法について理解できる。				
10	・第9章;臨床検査法 血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要				血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要の診察の意義と診察方法について理解できる。				
11	・第11章;治療学 ・第12章;臨床心理				治療学、臨床心理における診察の意義と診察方法について理解できる。				
12	・第10章;おもな症状の診察①				各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。				
13	・第10章;おもな症状の診察②				各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。				
14	・第10章;おもな症状の診察③				各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員 佐々木 史子 先生			
授業科目名 臨床医学各論 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な疾患の鑑別を行ってきた教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患の知識を習得することを目標とする。 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	第5章;腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎、腎不全				原発性糸球体腎炎、腎不全疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
2	第5章;腎・尿器疾患 感染症、腫瘍性疾患				感染症、腫瘍性疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
3	第5章;腎・尿器疾患 腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患 確認テスト				腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
4	第6章;内分泌疾患 下垂体疾患、甲状腺疾患				下垂体疾患、甲状腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
5	第6章;内分泌疾患 副腎疾患 確認テスト				副腎疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
6	第7章;代謝栄養疾患 糖代謝異常、脂質代謝異常				糖代謝異常、脂質代謝異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
7	確認テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	第7章;代謝栄養疾患 尿酸代謝異常、その他の代謝異常症 確認テスト				尿酸代謝異常、その他の代謝異常症について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
9	第8章;整形外科疾患 総論、関節疾患				整形外科疾患総論、関節疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
10	第8章;整形外科疾患 骨代謝性疾患・骨腫瘍				骨代謝性疾患・骨腫瘍について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
11	第8章;整形外科疾患 筋・腱疾患、形態異常				筋・腱疾患、形態異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
12	第8章;整形外科疾患 脊椎疾患、脊髄損傷				脊椎疾患、脊髄損傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
13	第8章;整形外科疾患 外傷				外傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
14	第8章;整形外科疾患 外傷、その他の整形外科				外傷、その他の整形外科について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース 授業科目名 リハビリテーション概論 I	学年 2	開講区分 後期	担当教員 東野 友寛先生	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床現場で施術業務を行っている教員が、リハビリテーションの捉え方を理解し、どのような評価方法を行なうかの授業を行う。また、リハビリテーションとはどのような範疇をとらえているのかをみていき、評価方法の基礎を学ぶ。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。					
〔到達目標〕 リハビリテーションの理念やその対象の決め方、進め方などを理解する。					
〔使用教材、参考文献等〕 リハビリテーション医学(医歯薬出版)			〔準備学習・時間外学習〕 リハビリテーションの理解を深めるため、難しい用語の意味まで理解し復習を重ねることが望ましい。		
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)			
1	リハビリテーションと障害	基本理念を理解する。			
2	IHIDHとICF	ICFを理解する。			
3	リハビリテーションの対象	身体障害について理解する。			
4	リハビリテーションの進め方	チームアプローチの理解をする。			
5	高齢者と高齢社会/確認テスト①	高齢者の特性を理解する。			
6	MMTとROM	MMTとROMの違いを理解する。			
7	活動の評価	バーセルインデックス・FIMを理解する。			
8	廃用症候群	廃用症候群とは何かを知り、症状や原因などを理解し、どのようなリハビリを行なうかを理解する。			
9	ブルンストームのステージ/確認テスト②	痙性マヒと弛緩性マヒの違いを理解する。			
10	理学療法	理学療法を理解する。			
11	作業療法	作業療法を理解する。			
12	言語聴覚療法	言語聴覚療法を知り、理解する。			
13	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワークについて理解できる			
14	総復習	授業の振り返りを行い、習熟度を高めることができる。			
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。			
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト①確認テスト②期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員 今井 紀代子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
はりきゅう治効理論									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、多種の鍼灸施術の方法を指導し、適切な施鍼・施灸技術を習得するための授業を行なう。応用技術習得と並行し、現場で通用するような基礎技術の向上が目的にある為、現場で必要とされる技術を身に付けられるよう授業に臨んでほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>なぜ鍼灸治療が効果があるのかの説明ができるような知識を習得する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう理論[医道の日本社]				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。 また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望まし					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 第9章 鍼灸治効の基礎 1、痛み感覚の受容と伝導			痛みの種類とそれぞれの特徴を理解できる。					
2	第9章 痛み感覚の受容と伝導～温度感覚の受容と伝達			痛覚受容器の種類と特徴、痛覚の伝導路を理解できる。					
3	第9章 触圧感覚の受容と伝達～鍼灸刺激と反射①			触圧感覚の受容と伝達について理解できる。 鍼灸刺激と関連する反射を理解できる①					
4	第9章 鍼灸刺激と反射②			鍼灸刺激と関連する反射を理解できる②					
5	第9章 鍼鎮痛①			鍼鎮痛について理解できる①					
6	第9章 鍼鎮痛②			鍼鎮痛について理解できる②					
7	第9章 刺激と反応			鍼灸施術における局所の反応が理解できる。					
8	確認テスト 解答・解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	第10章 鍼灸療法的一般治効理論 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響①			自律神経の概要が理解できる。					
10	第10章 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響②			鍼灸治療が自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響を理解できる。					
11	第10章 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響			生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響を理解できる。					
12	第10章 鍼刺激による免疫系への影響			鍼刺激による免疫系への影響、鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用を理解できる。					
13	第11章 関連学説 サイバネティックス学説～ストレス学説			鍼灸治効を考えるうえで参考となる学説を理解できる①					
14	第11章 ストレス学説～圧発汗反射			鍼灸治効を考えるうえで参考となる学説を理解できる②					
15	期末試験 解答・解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。1年生で学んだはりきゅう理論の内容の復習も併せて行っていくので、その復習も行うこと。					

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース 授業科目名 東洋医学臨床論 I	学年 2	開講区分 後期	担当教員 高浜 晴美先生	時間数 (単位) 30 (1)	授業回数 15
必修/選択 必修					
授業形態 講義					
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 東洋医学を通じて地域の健康増進に努めた鍼灸師が、症候を現代医学的、東洋医学的にとらえ、診断・治療について考える能力を習得する授業を行う。 鍼灸の臨床現場に必須の能力であることを意識して授業に臨んでほしい。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。					
〔到達目標〕 症状を現代医学的、東洋医学的に理解し、診断、治療方針の組み立てができる。					
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論(医道の日本社)			〔準備学習・時間外学習〕 解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また刺鍼に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)		
1	頭痛 現代医学の考え方		頭痛を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
2	顔面痛 東洋医学の考え方		顔面痛を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
3	顔面麻痺 現代医学の考え方		顔面麻痺を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
4	歯痛 東洋医学の考え方		歯痛を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
5	眼精疲労 現代医学の考え方		眼精疲労を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
6	鼻閉・鼻汁 東洋医学の考え方		顔面麻痺を東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
7	脱毛症 現代医学・東洋医学の考え方		脱毛症を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
8	確認テスト		テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。		
9	めまい 現代医学・東洋医学の考え方		めまいを現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
10	耳鳴りと難聴 現代医学・東洋医学の考え方		耳鳴りと難聴を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
11	咳嗽 現代医学・東洋医学の考え方		咳嗽を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
12	喘息 現代医学・東洋医学の考え方		喘息を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
13	胸痛 現代医学・東洋医学の考え方		胸痛を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
14	腹痛 現代医学・東洋医学の考え方		腹痛を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。		
15	期末試験 解説		テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。		
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース 授業科目名 東洋医学臨床論Ⅰ	学年 2	開講区分 後期	担当教員 東 路子先生	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15
必修/選択 必修					
授業形態 講義					
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 東洋医学を通じて地域の健康増進に努めた鍼灸師が、症候を現代医学的、東洋医学的にとらえ、診断・治療について考える能力を習得する授業を行う。 鍼灸の臨床現場に必須の能力であることを意識して授業に臨んでほしい。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。					
〔到達目標〕 症状を現代医学的、東洋医学的に理解し、診断、治療方針の組み立てができる。					
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論(医道の日本社)			〔準備学習・時間外学習〕 解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また刺鍼に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。		
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)			
1	悪心嘔吐 現代医学・東洋医学の考え方	悪心嘔吐を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
2	悪心嘔吐② 現代医学・東洋医学の考え方	悪心嘔吐を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
3	便秘 現代医学・東洋医学の考え方	便秘を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
4	下痢 現代医学・東洋医学の考え方	下痢を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
5	確認テスト(筆記25点) 月経異常現代医学・東洋医学の考え方	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。			
6	月経異常 現代医学・東洋医学の考え方	月経異常を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
7	排尿障害・インポテンツ 現代医学・東洋医学の考え方	排尿障害・インポテンツを現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
8	高血圧症・低血圧症 現代医学・東洋医学の考え方	高血圧症・低血圧症を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
9	確認テスト(筆記25点) 痩せ・肥満現代医学・東洋医学の考え方	痩せ・肥満を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
10	発熱・のぼせと冷え 現代医学・東洋医学の考え方	発熱・のぼせと冷気を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
11	不眠・疲労と倦怠 現代医学・東洋医学の考え方	不眠・疲労と倦怠を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
12	発疹・小児の症状 現代医学・東洋医学の考え方	発疹と小児の症状を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
13	老年医学における鍼灸療法 現代医学・東洋医学の考え方	高齢者に多い症状を現代医学的、東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。			
14	東洋医学臨床論 問題練習	症例問題を練習し治療方針をたてることができる。			
15	期末テスト(筆記50点) 解説	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。			
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員			深山 俊 先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、現代西洋医学をベースに病態把握・鑑別をするために必要な知識を習得するための授業を行なう。</p> <p>座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。また統合医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>臨床医学総論や臨床医学各論の知識に肉付けし、臨床科目の理解を促すことを目的として、病態把握、鑑別の必要性を理解し、重篤な疾患や緊急を要する病態を見落とさないための知識を習得することを目標とする。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
臨床家のための基礎からわかる(医道の日本社) 臨床医学各論(医歯薬出版)					専門用語が多い科目のため、予め教科書・参考書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	痛みとは			痛みの分類を理解できる。					
2	痛みとは			痛みの発生機序を理解できる。					
3	<痛み 確認テスト>消化管疾患の病態生理			消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>					
4	消化管疾患の病態生理			消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。					
5	<消化管 確認テスト>肝・胆・膵疾患の病態生理			肝・胆・膵疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>					
6	肝・胆・膵疾患の病態生理			肝・胆・膵疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。					
7	肝・胆・膵疾患の病態生理<肝・胆・膵疾患 確認テスト>			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。 <確認テスト>					
8	耳鳴りの病態生理			耳鳴りの病態生理、臨床症状について、理解できる。					
9	耳鳴りの病態生理			耳鳴りの病態生理、臨床症状について、理解できる。					
10	<耳鳴り 確認テスト>難聴の病態生理			難聴の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>					
11	難聴の病態生理			難聴の病態生理、臨床症状について、理解できる。					
12	<難聴 確認テスト>眩暈の病態生理			眩暈の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>					
13	眩暈の病態生理			眩暈の病態生理、臨床症状について、理解できる。					
14	<眩暈 確認テスト>病態生理の総復習			病態生理学の知識を確認し、試験における自らの課題発見ができる。 <確認テスト>					
15	期末テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 後期	担当教員 東 路子先生		
授業科目名 応用はり実技	必修/選択 必修	授業形態 実技	時間数(単位) 30	授業回数 15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の施術を経験している教員が、経絡の流注や経穴に対する刺鍼の深さ・方向、また筋と経穴の関係性を学ぶ授業を行う。 実技の授業となるため遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。</p>					
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各筋に対して正確に刺鍼でき、低周波鍼通電ができる。 ・筋の起始停止が理解でき筋上にある経穴に正確に刺鍼できる。 ・デルマトーム領域を理解できデルマトーム上にある経穴に正確に刺鍼ができる。 					
〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう実技基礎編(医道の日本社)			〔準備学習・時間外学習〕 解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また刺鍼に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。		
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)			
1	下腿の筋と経穴	下腿部の筋の起始停止を理解し筋上にある経穴に正確に刺鍼ができる。			
2	下半身のデルマトームと経穴	下半身のデルマトーム領域を理解し、デルマトーム上にある経穴に正確に刺鍼できる。			
3	低周波鍼通電の使用方法和前脛骨筋パルス	低周波鍼通電の使用法を理解できる。また前脛骨筋の機能を理解し鍼通電が正確にできる。			
4	腓腹筋・ヒラメ筋パルス	腓腹筋・ヒラメ筋の機能を理解し鍼通電が正確にできる。			
5	大腿四頭筋パルス	大腿四頭筋の機能を理解し、鍼通電が正確にできる。			
6	ハムストリングスパルス	大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋の機能を理解した上で鍼通電が正確にできる。			
7	実技練習と確認テスト(筆記15点)	筆記試験により知識習得の効果測定を行う。また実技練習をし技術の向上に努める。			
8	総復習	各筋の機能を理解した上で鍼通電が正確にできる。			
9	上半身のデルマトームと経穴	上半身のデルマトーム領域を理解し、デルマトーム上にある経穴に正確に刺鍼できる。			
10	上腕二頭筋・上腕三頭筋パルス	上腕二頭筋・上腕三頭筋の機能を理解した上で鍼通電が正確にできる。			
11	僧帽筋パルス	僧帽筋の機能を理解した上で鍼通電が正確にできる。			
12	殿筋パルス 大殿筋・中殿筋・小殿筋パルス	大殿筋・中殿筋・小殿筋の機能を理解した上で鍼通電が正確にできる。			
13	脊柱起立筋・腰方形筋パルス	脊柱起立筋・腰方形筋の機能を理解した上で鍼通電が正確にできる。			
14	実技練習と確認テスト(筆記15点)	筆記試験により知識習得の効果測定を行う。また実技練習をし技術の向上に努める。			
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。			
〔評価について〕 評価は実技試験と筆記試験で行う。 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 触診や取穴が難しいときは授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	開講区分	後期	担当教員				
鍼灸師科午後コース		2			柏崎 雅大 先生				
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はりきゅう実技									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸師として臨床の現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、多種の鍼灸施術の方法を指導し、適切な鍼灸・灸技術習得するための授業を行なう。応用技術習得と並行し、現場で通用するような基礎技術の向上が目的である為、現場で必要とされる技術を身に付けられるよう授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕									
身体各部位に安全に施灸行為を行うことができる。 透熱灸、隔物灸、灸頭鍼、糸状灸、吸角療法の技術を対人で行うことができる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
はりきゅう実技基礎編(医道の日本社)					解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また施灸に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	隔物灸の種類と注意点 しょうが灸				安全に配慮し、しょうが灸による対人施灸ができる。				
2	隔物灸の種類と注意点 塩灸・みそ灸				安全に配慮し、塩灸・みそ灸による対人施灸ができる。				
3	隔物灸の種類と注意点 綿花灸				安全に配慮し、綿花灸による対人施灸ができる。				
4	灸頭鍼の基礎と注意点 枕を用いた訓練				適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。灸頭鍼の留意点を把握し、適切な除灰ができる。				
5	灸頭鍼の基礎と注意点 下肢経穴への人体施灸				適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。灸頭鍼の留意点を考慮して対人施灸ができる。				
6	灸頭鍼の基礎と注意点 腰背部への人体施灸				適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。灸頭鍼の留意点を考慮して対人施灸ができる。				
7	確認テスト				テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。				
8	灸頭鍼の応用				八膠穴への刺鍼技術を習得し、仙骨部への灸頭鍼が安全に行える。				
9	糸状灸の基礎				適切な大きさ・形の艾炷を形成できる。糸状灸の留意点を把握し、基本的な施灸動作を身に付けられる。				
10	糸状灸の応用				糸状灸の技術を用いた、治療法を模倣できる。				
11	吸角療法の基礎				吸角療法の留意点を把握し、吸角療法の基本的な施術動作を習得できる。				
12	灸点紙を用いた連続施灸				灸点紙を用いて訓練し、透熱灸の基礎技術を向上させることができる。				
13	二点交互施灸				二点交互施灸で、透熱灸の基礎技術を向上させることができる。				
14	総復習 二点交互施灸				二点交互灸の技術を確認し、試験における自らの課題発見ができる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は実技試験で行う。 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					学生は、リスク管理、環境管理の視点を疎かにしてはならない。危険なく施術できるようになる為、何が危険因子となるのかを考え、自ら教員にアドバイスを求めること。適宜紙上の施灸を実施し、技術確認を行う。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	集中	担当教員	
授業科目名						東 路子 先生	
保険の仕組みと職業倫理		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1) 授業回数 8
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸の保険請求業務を経験している教員が、高齢化社会における保険の役割を理解し、鍼灸施術における保険制度の仕組みについて授業を展開する。 日本における社会保障制度を理解し、医療保険・年金保険・介護保険の仕組みを説明できるようになって欲しい。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>社会保障と社会保険制度について説明することができる。また、鍼灸師として保険を利用することを理解し仕組みを説明できる。</p>							
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕			
				授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	公的医療保険の仕組み(入門)			国民皆保険の仕組みについて理解することができる。			
2	社会保障制度について			日本における社会保障制度について理解することができる。			
3	社会保障制度の中の社会保険について			社会保険の5つについて学び理解することができる。			
4	社会保険制度(医療保険・年金保険)			医療保険・年金保険の仕組みについて理解できる。			
5	社会保険制度(介護保険)			介護保険制度の仕組みについて理解できる。			
6	社会保険制度労働保険(雇用保険と労災保険)・職業倫理			模擬保険請求について練習問題をグループワークで解決することができる。			
7	鍼灸師における訪問鍼灸と保険について			保険利用についての仕組みを理解する。			
8	確認テスト(筆記100点)			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
〔評価について〕				〔特記事項〕			
評価は、筆記試験100点で行う。 評価は学則規定に準ずる。							

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 集中	担当教員 笠井 友和 先生 他、専任教員
授業科目名 触擦解剖Ⅱ	必修/選択 必修	授業形態 実技	時間数(単位) 30(1)
		授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として臨床の現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、体表解剖と経穴について指導し、取穴技術を習得する授業を行なう。また様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、临床上必要な関節可動域測定や徒手筋力検査を実技形式で行う。卒業に関わる実技試験で問われる内容(ROM・反射検査・徒手検査法)なので主体的に取り組んで欲しい。より臨床的な内容になるため、治療のイメージが持てるようになって欲しい。

主要な関節の可動域(ROM)・徒手筋力検査(MMT)、腱反射・病的反射による神経の診察法、徒手検査法ができるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

〔準備学習・時間外学習〕

技術を習得する実技授業であるため、反復練習をし習得に努め

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	体表解剖と経穴(1)	体表面上で経穴の位置を理解することができる。
2	体表解剖と経穴(2)	体表面上で経穴の位置を理解することができる。
3	ROM概要・頸部ROM測定	ROMの概要(計測方法・器具の使い方)を理解し模倣できる。 頸部の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。
4	上肢ROM測定	上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる
5	下肢ROM測定	下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。
6	MMT概要・頸部MMT測定	MMTの概要(6段階評価・測定方法)を理解し模倣できる。 頸部の運動方向を理解し、測定ができる。
7	上肢MMT測定	上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向を理解し、測定できる。
8	下肢MMT測定	下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向を理解し、測定できる。
9	ROM総復習(患者対応含めた対応)	患者役にROM測定の意義を説明し、測定できる。
10	確認テスト ROM測定	ROM測定のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
11	現代医学的診察 腱反射、病的反射	腱反射、病的反射の方法を実践できる。
12	現代医学的診察 徒手検査法 頸肩部	頸肩部の徒手検査法を実践できる。
13	現代医学的診察 徒手検査法 腰下肢	腰部下肢の徒手検査法を実践できる。
14	現代医学的診察 徒手検査法 その他、徒手検査の総復習	その他の徒手検査を実践できる。患者役に徒手検査法の意義を説明し、測定できる。
15	期末テスト 徒手検査法	徒手検査法のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。

〔評価について〕

評価は確認テスト・期末テスト(計100点)で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じてプリントを配布する。

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	集中	担当教員			印南 秀先生他
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が、多様な臨床現場でのあはき師の業務・役割について教授する。 また、鍼灸師の新たな働き方や分野の創造、はりきゅう経営に関わる経営学を講義・ワーク形式で行う。									
〔到達目標〕 1年次に学んだ社会あはき学の内容を踏まえ、様々な現場で活動する鍼灸師の仕事・役割をすることで、自身の将来像をより明確に出来る。 独立開業権を有する鍼灸師として、治療院経営をイメージできる。									
〔使用教材、参考文献等〕 社会あはき学					〔準備学習・時間外学習〕 講義内容を復習し、自分自身の将来像を明確にする。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	鍼灸師としての活躍の場①			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
2	鍼灸師としての活躍の場②			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
3	鍼灸師としての活躍の場③			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
4	鍼灸師としての活躍の場④			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
5	鍼灸師としての活躍の場⑤			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
6	鍼灸師としての活躍の場⑥			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
7	あはき教員の役割			養成施設の教員要件と職業倫理が理解できる					
8	あはき教員の役割			養成施設の教員要件と必要な臨床能力が理解できる					
9(1)	はりきゅう経営論 オリエンテーション 事業計画の作成方法			講義・ワークを通して事業計画作成のイメージを創造できる。					
10(2)	事業イメージの共有と市場調査の仕方			市場調査の仕方を理解できる。					
11(3)	事業イメージを個人発表(確認テスト)			事業イメージを発表し、チームを作る。					
12(4)	ビジネスモデルのブラッシュアップと事例発表			グループワークで事業案のブラッシュアップができる。					
13(5)	市場の変化について			現在の市場について理解できる。変化する環境を理解できる。					
14(6)	アイデアピッチコンテストに向けて			発表に向けての準備を行う。					
15(7)	期末試験(発表)			グループで作成した成果物の発表を行う。					
〔評価について〕 評価は授業内で行うワークでの成果物と発表にて行う。					〔特記事項〕 必要に応じてプリントを配布する。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講 区分 集中	担当教員 大石 知絵子 先生 他、専任教員
授業科目名 認定実技(OSCE) I	必修/ 選択 必修	授業 形態 実技	時間数 (単位) 30 (1) 授業 回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床現場で様々な患者に関わってきた教員が、臨床実習に臨むために医療人としてふさわしい技術・知識を身につけるための講義を行う。

〔到達目標〕

客観的臨床能力試験に向けたコミュニケーション技法を把握できる。
医療人として必要とされる技術・知識を理解できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK(滋慶教育科学研究
所)

〔準備学習・時間外学習〕

講義内容を復習すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	実習前教育(1)	実習生として必要なマナーを知り、身だしなみや態度に留意できる。実習生紹介書を作成できる。
2	医療面接について	医療面接の概要を把握できる。
3	医療面接ロールプレイ(2人1組 時間10分) 医療面接流れ確認・聴取事項説明・冊子を見ながらプレイ	医療面接に必要な項目を質問することができる。
4	実習前教育(2)	実習生として必要なマナーを更に知り、外部実習概要を理解することができる。
5	医療面接ロールプレイ(3人1組 時間8分) 冊子を見ないでプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。
6	医療面接ロールプレイ(3人1組 時間8分) 冊子を見ないでプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、まとめることができる。
7	リスク管理	医療現場におけるリスクファクターと対策を知ることができる。
8	医療面接ロールプレイ カルテの書き方	SOAP形式による記載事項を知り、聴取した項目までを記入できる。
9	確認テスト 医療面接(8分間)	医療面接のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
10	実習前教育(3)	実習生として現場で必要な注意事項を理解できる。
11	実習前教育(4)	実習生として現場で必要な注意事項を体現できる。
12	臨床実習事後報告準備(1)	報告会までにすべき準備をまとめられる。
13	臨床実習事後報告準備(2)	報告会までにすべき準備をまとめられる。
14	臨床実習事後報告会(1) 期末評価	実習報告により、自身の課題発見ができる。
15	臨床実習事後報告会(2) 期末評価	実習報告により、自身の課題発見ができる。

〔評価について〕

評価は医療面接による確認テストとレポートの合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

学生は実習を受けさせていただくにあたり、対人におけるマナー、礼節、リスク管理、時間管理を疎かにしてはならない。効果的な実習体験ができるよう、どのような行動を取るべきかを常に考え、分からない事や知りたい事は自らアドバイスを求めること。

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	集中	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義/演習	専任教員			
総合学習						時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸師として臨床現場で活躍してきた教員が、医療人を目指す上で必要な能力を、能動的に学習できるよう学習技法を習得する授業を行う。 コミュニケーションスキルが医療を学ぶ上で必須の能力であることを意識して臨んでほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>集団行動を通して、医療人を目指す上で必要とされる基礎的なコミュニケーション能力と能動的学習法を習得する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
					講義内容を復習すること。各々が一社会人となる意識を持ち、人格形成に努めること。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	集団行動の実践(1)				集団行動の重要性を再考できる。				
2	集団行動の実践(2)				異学年とのコミュニケーションを通じ集団行動を行うことができる。				
3	デジタルコンテンツをコンテンツを用いたコミュニケーション(1)				デジタルコンテンツを作成方法を学び理解することができる。				
4	徒手療法(1)				徒手療法を学ぶことができる。				
5	徒手療法(2)				徒手療法を学び実践することができる。				
6	徒手療法(3)				徒手療法を学んだことを振り返ることができる。				
7	デジタルコンテンツを用いたコミュニケーション(2)				自己を振り返り自身の目標を設定し動画等を作成することができる。				
8	デジタルコンテンツを用いたコミュニケーション(3)				自己を振り返り自身の目標を設定し動画等を作成することができる。				
9	デジタルコンテンツを用いたコミュニケーション(4)				自己を振り返り自身の目標を設定し動画等を完成し提出することができる。				
10	デジタルコンテンツを用いた学び				コンテンツの利用方法を学び実践しデジタル授業で学ぶ環境を整えることができる。				
11	学習習慣の重要性と成果の出し方について				講演を通じ学習習慣や成果の出し方を学び自身の振り返ることができる。				
12	知識の定着を図るための講座①				講座を通じ学習成果の出し方を学び実践できる。				
13	知識の定着を図るための講座②				講座を通じ学習成果の出し方を学び実践できる。				
14	知識の定着を図るための講座③				講座を通じ学習成果の出し方を学び実践できる。				
15	知識の定着を図るための講座④				講座を通じ学習成果の出し方を学び実践できる。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価はレポート提出による。評価は学則規定に準ずる。									

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	集中	担当教員 日本ライフセービング協会／専任教員			
授業科目名 総合学習		必修/選択	必修	授業形態	講義演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 BLSについて知見のある教員が、BLSの基本的な知識と技術に関わる講義と実技を行なう。鍼灸師として心身の健康を支えるために必要なBLSの資格講習となるため、積極的に授業に臨んで欲しい。現代医学的診察法においては臨床現場に必要な診察の基礎、血圧測定法やその意義を理解するための授業を行う。また座学科目の総合的知識確認の為の効果測定を行う。									
〔到達目標〕 BLSの資格を取得を目標とする。臨床現場や日常生活で救命措置が必要な場面に遭遇した際、適確な判断のもと、対処できる知識と技術を習得する。現代医学的診察法では、臨床現場で必要となる血圧測定法・意義を理解し、適確に行える技術を習得する事を目的とする。また座学科目の総合的知識を確認し、知識の定着を目的とする。									
BLS;心肺蘇生教本(ライフセービング協会) 現代医学的診察法;ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK (滋慶出版)				〔準備学習・時間外学習〕 BLS;資格講習となるため、繰り返し復習することが望ましい。現代医学的検査法:検査法の意義、方法を理解するため、解剖学や生理学を復習して授業に臨んで欲しい。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	心肺蘇生法とAEDの使用について(1)			BLSの概要を理解できる。					
2	心肺蘇生法とAEDの使用について(2)			BLSの基礎知識を理解できる。					
3	心肺蘇生法とAEDの使用について(3)			心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。					
4	心肺蘇生法とAEDの使用について(4)			心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。					
5	心肺蘇生法とAEDの使用について(5)			心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。					
6	心肺蘇生法とAEDの使用について(6)			心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。					
7	心肺蘇生法とAEDの使用について(7)			心肺蘇生法、AEDの使用法を身につけることができる。					
8	心肺蘇生法とAEDの使用について(8)			心肺蘇生法、AEDの使用法を身につけることができる。					
9	心肺蘇生法とAEDの使用について(9)			資格認定試験にむけて、理解を深めることができる。					
10	心肺蘇生法とAEDの使用について(10) 認定試験			資格認定試験を行なう。					
11	現代医学的診察 検査概要、血圧測定			血圧測定の方法を実践できる。					
12	確認テスト(1)			四肢択一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。					
13	確認テスト(1) レポート			テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
14	確認テスト(2)			四肢択一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。					
15	確認テスト(2) レポート			テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は確認テスト・レポート評価を2回実施し、合計100点で評価する。評価は学則規定に順ずる。				〔特記事項〕 救命救急技術の演習を行なうため、動きやすい服装(スカート不可)で参加すること。					

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	集中	担当教員			鈴木 勇氣先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義演習	時間数(単位)	60 (2)	授業回数	30
総合スポーツ演習 I									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>スポーツ現場でトレーナーの仕事を経験した鍼灸師の資格を持った教員が、身体各部位のスポーツ傷害について、怪我の発症から検査、評価などに関する知識をグループワークを交えながら学ばせていく。</p> <p>スポーツ現場での選手や治療院でのスポーツ傷害を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>スポーツ傷害における簡単な発症機序から検査・評価について理解する事ができる。</p> <p>スポーツ傷害における病態把握の重要性を理解する事ができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
					運動器における身体各部位の解剖学を復習し授業に臨むこと。また、動作チェックやテスト法など検査についてしっかりと復習し、適確にできるよう練習する事。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	講義の概要とスポーツ傷害(障害)について 鍼灸師の役割				傷害と障害の違いを理解できる。 スポーツ現場での鍼灸師の役割が理解できる。				
2	腰背部の傷害と評価 腰背部・股関節のテスト法				腰背節周囲の傷害や評価方法が理解できる。				
3	肉離れについて				肉離れの概要・評価・治療が理解できる。				
4	膝関節周囲の傷害と評価 打撲について				膝関節の傷害や評価方法が理解できる。				
5	足関節周囲の傷害と評価				下腿・足関節の傷害や評価方法が理解できる。				
6	股関節周囲の傷害と評価				股関節周囲のストレッチを模倣できる。				
7	肩関節周囲の傷害と評価 確認テスト(レポート)				肩関節周囲の傷害や評価方法が理解できる。				
8	頭頸部の傷害と評価				頭頸部の傷害や評価方法が理解できる。				
9	急性腰痛について				急性腰痛の概要・評価・治療が理解できる。				
10	肘関節・手関節の傷害と評価 シンスプリント				肘関節や手関節の傷害や評価方法が理解できる。 シンスプリントの概要・評価・治療が理解できる。				
11	ストレッチ・ファンクショナルトレーニング				静的・動的ストレッチが理解できる。 ファンクショナルトレーニングが理解できる。				
12	部位別ケーススタディ				与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。				
13	部位別ケーススタディ				与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。				
14	部位別ケーススタディ				与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。				
15	部位別ケーススタディ 期末テスト				与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価はレポートもしくは筆記試験、発表により採点を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					1回の授業で2コマずつ行なっていく。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	集中	担当教員 各実習地指導者又は専任教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実習	時間数 (単位)	90 (2)	授業回数	—
臨床実習 I									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が、鍼灸師のスペシャリストを目指すために、患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。 院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。 デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 デイリーノート					〔準備学習・時間外学習〕 コミュニケーションの基礎や実習前教育で学んだ内容を復習し実習に臨むこと。またその日のうちにその日の振り返りをし、次の実習に備えること。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
2	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
3	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
4	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
5	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
6	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
7	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
8	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
9	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
10	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
11	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
12	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
13	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
14	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
15	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
〔評価について〕 評価は別途評価表で行なう。 評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。				